

令和3年度（2021年度）交付

市民活動応援補助金 成果報告書

- 本報告書は各団体から提出された事業報告書や自己評価シートなどの資料をもとに作成しています。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	大正琴 遊琴子
事業名	大正琴の美しい響き
種別	地域活動型
補助金額	103,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	大正琴に係る活動を通じて、仲間づくり、情操の純化を図り、心豊かな生活につなげ地域文化の向上を目指す。		
活動・業務	社会福祉施設等への訪問コンサートや、チャリティーコンサート、敬老会、地域行事での演奏活動を行なっている。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	18人

事業内容

大正琴の文化伝承、活動を通じた仲間づくり、瀬戸内市の文化向上、大正琴以外の楽器とのコラボレーションによる交流拡大などを目的に、「大正琴の美しい響き」と銘打った音楽イベントを開催した。

事業の成果

- 会場席が満員になり(300人)、多くの人に大正琴がどんな楽器なのか知ってもらうことができた。
- イベントにより大正琴の文化普及と地域とのつながりが生まれた。
- コンサートの様子をYouTubeで発信できた。

事業を振り返って良かったこと

- 事業を通して、市民生活に活力と安らぎを与えることができた。
- 事業により大正琴を知っていただけたので、地域のイベント、施設ボランティアに出向く機会が増えた。
- 事業後、子どもたちが楽器に触れる場が増えた。
- 補助金を活用することで、より市民への広報や地域交流を意識して事業を展開することができた。
- 会場が満席になり、「来年も楽しみにしているよ」という声をいただいた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 若者、年少者へ向けた広報や事業内容に課題がある。
- 今後、他サークルとの共演を今後行っていくことで更なる文化力向上を目指していきたい。会員の趣味で終わることなく、力をつけて他県での演奏も実施し、瀬戸内市のPRにつながるよう取り組んでいきたい。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団 体 名	長船夏祭り実行委員会
事 業 名	長船夏祭り2021
種 別	地域活動型
補助金額	211,300円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	夏祭りを通じて地域を盛り上げるとともに、高校生や中学生の活躍の場をつくり地域の人材育成に取り組む。		
活動・業務	長船夏祭りの企画、準備、運営を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市 長船町内	構 成 員 数	17人

事業内容

地域の人を喜ばせ地域のために活動できる人材づくりを行う場でもある長船夏祭りを次世代に継承していくため、今年度はコロナ禍でのニュースタイル夏祭りの可能性を探りながら、長船夏祭りを企画・開催した。

事業の成果

- 地域企業からの募金、協賛金、市の補助金を活用して夏祭りを開催した。コロナウイルスの影響で例年通りに祭りを開催することができなかったが、花火を上げることができ、地域に「笑顔」と「元気」を与えることができた。
- 長船中学校の生徒に協力してもらうなど、中学校と連携することができた。
- 事業を進めていく中で、実行委員が地域の方の優しさに触れ、最後までやり遂げることの大切さを学び、瀬戸内市の魅力を実感することにつながり人材育成にも貢献することができた。ひとりひとりが多くのことを学び、力を身につけることができた。

事業を振り返って良かったこと

- 長船中学生の生徒や地域の多くの企業様に協力・協賛してもらえて、地域の人や異世代で共につくる取組になった。
- 多くの地域の人たちから、「ありがとう」「元気がでた」「また来年も頑張れ」という声をいただくことができてとても嬉しく感じた。
- 準備を進めるなかで地域の方の優しさ、最後までやりとげるものの大切さ、瀬戸内市の魅力をあらためて感じる事ができた。
- コロナ禍でも完全予約制で車内観覧にするなど、対策を工夫することで祭りを開催することができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 来年以降も継続して実施し、引き続き「地域に喜んでいただける祭り」「次世代への承継」を軸に活動し 自分たちにしかできない祭りで瀬戸内市の魅力をもっと伝えていきたい。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団 体 名	せとうちキラリ☆くらぶ
事 業 名	せとうちキラリ事業
種 別	地域活動型
補助金額	398,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市の魅力ある資源に光をあて活性化を図るとともに、キラリと光る元気な人・地域・ものづくりを行う。		
活動・業務	市の魅力を発信するイベントの企画実施、PRを行う。		
主な活動地域	瀬戸内市内	構 成 員 数	不明

事業内容

瀬戸内市の教育文化の向上、観光事業の促進、地域の活性化などを目的として、市の歴史文化を学ぶ「キラリ市民文化講座」や子どもから高齢者まで三世代が参加して交流を深める「瀬戸内三世代ファミリー祭り」を開催した。

事業の成果

- キラリ市民文化講座を8講座を実施(コロナの影響で2講座中止)参加者20ー30名程度を集客した。当日の講演内容YouTubeチャンネルで公開した。
- 新しい観光地の発掘PRと地域のつながりづくりを目的に、今年度初めて子父雁地区で「瀬戸内三世代ファミリー祭り」を開催した。約200人の参加があり、民話の披露や防災グッズの紹介、地元のメニューが振る舞われた。様々な団体に参加いただき、参加者に喜んでもらえる場作りができた。

《YouTubeチャンネル》

せとうちキラリ☆くらぶ

<https://www.youtube.com/channel/UCzCoBgkioDrGi3GEwEnL16w>

事業を振り返って良かったこと

- 他団体と連携して実施することで事業規模が大きくなり、内容も充実させることができた。
- 地元の人とコラボすることで地域の活性化に役立てる手ごたえを得ることができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 地域の団体やボランティアの方たちと企画の段階で話し合うことが必要だと思う。
- 単独ではなく実行委員会形式で企画を実施することが効果的である。
- 地元の要望があれば「瀬戸内三世代ファミリー祭り」も継続したい。
- YouTubeの活用については今後さらに良いものにしていきたい。また、他団体も活用できるような企画を考えていきたい。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	牛窓朝市実行委員会
事業名	牛窓朝市
種別	地域活動型
補助金額	100,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	牛窓朝市を開催することで、牛窓町の活性化に寄与する。		
活動・業務	牛窓朝市の運営、参加者の管理、名産品の発掘など。		
主な活動地域	瀬戸内市 牛窓町牛窓	構成員数	6人

事業内容

毎月1回の牛窓朝市の定期開催を通じて、市民に牛窓の一次二次産品を手軽に食することができる機会を提供し、市外にその魅力を発信する。同時に、朝市参加団体及び六次産品の育成を目指す事業。

事業の成果

- 毎月第二日曜日に牛窓綾浦緑地で朝市を開催した（4月～6月、9月、2月はコロナの影響で開催を中止）。
- 毎回10店舗以上が出店し、100～500名の参加者が集まった。
- コロナ禍でもアルコール消毒や検温等の運営体制を整備して朝市を実施することができた。

事業を振り返って良かったこと

- 出店者へ牛窓食材の利用を促すことができた。
- 朝市会場だけでなく、地域内への来場者の回遊が増え、地域活性化に寄与することができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ禍により普段よりも野菜や魚の出荷量が減り廃業した生産者や、コロナによりイベントがなくなっている飲食店に向けて、事業者が安心して販売できる場が必要であると感じた。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団 体 名	せとうちこども合唱団 ティンカーベル
事 業 名	子ども達の笑顔と歌声が市民を明るく 元気にする訪問合唱活動
種 別	地域活動型
補助金額	308,700円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	高齢者や入院患者に癒しや生きる意欲を提供するため子どもたちの歌声を届ける。子どもたちに活動を通じて合唱の喜び、仲間との協同活動の大切さ、社会貢献や奉仕の喜びを伝える。		
活動・業務	定期的に練習を行いながら、施設やイベント等を訪問し合唱公演を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市内	構 成 員 数	48人

事業内容

コロナ禍の影響で例年のような訪問活動ができない状況のなか、オンライン訪問やボディーパーカッションや手話などによるクリスマスコンサートを開催するなど様々な工夫して事業を実施し、市民に明るい気持ちになってもらうための活動を行った。

事業の成果

- 春と夏の2回、特別養護老人ホームせとうちの入居者とオンライン交流を実施し、入居者に好評であった。
- 邑久地区のふれあいサロン、子父雁地区のお祭りなど地域の行事に参加し、発表の機会を得た。
- 12月に中央公民館でクリスマスコンサートを開催し、270人の観客が集まった。
- 合宿やキャンプを中止にせざるを得なかったが、代わりに牛窓海岸でサンドアートに挑戦し、団員や保護者の親睦を深めることができた。
- これまで保育園やこども園への訪問では、施設内で活動を行っていたが、今回は園庭で歌やダンスを披露し、園児たちにとっても楽しんでもらうことができた。

事業を振り返って良かったこと

- コロナ対応として手話や手話ダンス、ボディーパーカッション、無言ミュージカルなど新しいチャレンジができたことは子どもたちにとって大変意味があった。
- クリスマスコンサートで中央公民館の大ホールが満席になった。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナの影響でイベントも少なく、新入団員が上級生と上手く関わるができなかったり、団体に馴染むことができなかったりして退団してしまう子がいて非常に残念だった。
- 2年間にわたり合宿練習ができなかったことで、団員に仲間意識や団結力が弱くなってしまった。それらを養う意義は大きいと考えているので次年度は是非実施したい。
- 中央公民館大ホールでのクリスマスコンサートが満席なるほど好評だったので、今後も大ホールを利用してコンサートを実施していきたい。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	備前福岡大市実行委員会
事業名	備前福岡大市・いどばた朝市
種別	地域活動型
補助金額	178,700円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	大市の開催を通じて、買い物弱者への応援と長船町福岡の観光振興ひいては瀬戸内市全体の魅力向上に寄与する。		
活動・業務	年2回の大市開催と月1回のいどばた朝市の開催。		
主な活動地域	瀬戸内市 長船町福岡	構成員数	30人

事業内容

年2回の備前福岡の大市、毎月のいどばた朝市を継続的に開催し、地元の人との交流の場を設けるとともに、世代を超えて地域文化や慣習を継承していく事業。また、観光客に備前福岡の観光PRも継続的に行った。

事業の成果

- 11月に「福岡の中市」を開催し、300人ほどの参加者があった（春はコロナの影響で中止）。コロナ対策として分散会場にしたため、地域の回遊性が生まれるなど新たな発見があった。
- 毎月第四日曜日には「いどばた朝市」を開催し、毎回10人から20人の参加者があった。野菜販売などにより地域の食を通じた地域コミュニティ醸成や買い物弱者支援に寄与することができた。

事業を振り返って良かったこと

- 分散型のイベントを試みたことが新たな発見につながり、今後大市を継続していくためのヒントになった。
- 毎月のいどばた朝市ではお年寄りのサロン活動的な要素もあり、日常の様子共有や地域の見守りに寄与することができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 運営メンバー同士の情報共有や意識共有が、事業の発展につながるので運営組織の強化と啓発活動に力を入れていきたい。
- 年間を通じて地域の行事と連動していきたい。
- 新しい世代への運営委員会の参加を促し、世代交代に備える体制づくりを進めていきたい。
- 今後も地域の安心安全を第一優先に、コロナ対策を徹底しながら、新たな企画を盛り込むなどより充実した取組を継続していきたい。

令和3年度 市民活動応援補助金事業成果

団 体 名	牛窓文化再生保存プロジェクト 実行委員会
事 業 名	牛窓文化再生保存プロジェクト
種 別	ステップアップ型(2年目)
補助金額	737,500円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	文化を通じて牛窓の町の魅力を全国へ発信し、牛窓文化の再生と保存を行う。		
活動・業務	牛窓地区を中心に様々な文化イベントを実施。また、出版物やWEBサイトなどを通じて、全国へ情報発信を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市 牛窓町	構 成 員 数	5人

事業内容

過疎化が進む牛窓で文化や伝統を再生し残していくために、様々なアーティストを招いてイベントを行う事業。一時的なイベントでの集客だけでなく、年間を通して旅行客や観光客が訪れる状態にすることを狙い、事業を通して収集した画像や動画による質の高い情報発信を行った。

事業の成果

- お茶とピアノの会(参加者6人)、牛窓茶会(同20人)や牛窓歌会(同30人)、布団づくり実演会(同20人)、街角ミュゼ牛窓文化館での演奏会(同40人)を開催した。
- 各企画の参加者は少人数で行い、内容密度の濃い企画をすることができた。
- 牛窓を舞台にしたアパレルブランドとのコレクション撮影を実施し、撮影画像はDMやWEBサイト、SNSなど多角的に使用した。
《ホームページ》 <https://www.ushimado.jp/>

事業を振り返って良かったこと

- アーカイブが資産になり、今後の活動の可能性を広げることができた。
- 今年度はじめて街角ミュゼ牛窓文化館でイベントを開催したが、まちの歴史に触れるイベントになり、次年度に向けての企画イメージが広がった。
- 文化に関心の高い参加者を呼ぶことで情報発信力を強くすることができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ禍で大勢の人を呼ぶイベントが難しいため、地域の人たちと一緒にできる企画を進めていきたい。
- イベントを通じて、参加者のまちの歴史に対する興味も高まっているので、次年度の企画につなげていきたい。
- 牛窓には空き家が多くあり、空き家を活用してアーティスト・イン・レジデンスを実施することでその課題解決に取り組んでいきたい。